

悪性新生物および慢性炎症疾患の新規診断と治療法開発のための後方視的研究

研究の意義・目的

慢性炎症が悪性腫瘍を惹起することはよく知られている。悪性新生物は死因の第一位を占めており、克服すべき疾患である。とりわけ消化器癌は発生頻度が高く、予後不良な悪性腫瘍で、予後の改善には診断や治療の進歩が望まれる。転移や浸潤度など疾患の病勢、再発の有無や予後、治療への反応などの臨床データと手術標本、生検組織を用いた遺伝子発現解析との相関を検討することで、癌の新規診断および治療法確立が期待される。本研究では、消化器癌（食道癌・胃癌・小腸癌・大腸癌・肝癌・胆管癌・膵癌）、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病・ベーチェット病）、乾癬、皮膚癌、腎癌、頭頸部癌の新規診断および治療法確立を目的とする。

研究方法

対象は消化管癌（食道癌・胃癌・小腸癌・大腸癌、胆管癌・膵癌）、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病・ベーチェット病）乾癬、皮膚癌、腎癌、頭頸部癌と診断された症例。病型分類、組織型分類、悪性度（上皮内癌、浸潤癌）、治療法は問わない。解析対象期間は2001年1月以降2022年3月までとする。

検討される患者情報としては、年齢、性別、血液検査、腹部症状の有無、内視鏡所見、各画像検査(US、CT、MRI、FDG-PET)における画像所見、病理所見、手術日、術式、最終組織診断、病変の大きさ、再発の時期、治療の効果、治療終了日、死亡日である。

研究期間

実施承認後～2023年3月31日

研究機関

近畿大学医学部 消化器内科、皮膚科、腫瘍内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科教室

個人情報の取り扱いについて

氏名、生年月日、住所などの個人情報に関わるデータは一切使用いたしません。この研究は近畿大学医学部臨床倫理委員会の審査・承認を得ております。説明を希望される方は以下にご連絡ください。また本研究に対して診療情報の提供を望まれない方はお申し出ください。なお、その申し出により今後の診療などに不利益が生じることはありません。

近畿大学医学部消化器内科教室

研究代表者 櫻井俊治 講師

〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2

TEL: 072-366-0221 (内線3525) FAX: 072-366-2880

対象疾患追加のため改訂しました

2017年11月6日